

<全体分析>

試験時間 90 分

<p>解答形式 記述(70点)・論述(30点)</p> <p>分量・難易(前年比較) 分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化) 大問4。I～Ⅲは記述(小問数70)。Ⅳは200字の論述2題。</p> <p>出題の特徴 時代別では、「原始・古代」「中世」「近世」「近代・戦後」でほぼ四分割の配点は例年と同じ(ただし、原始は小問1つのみ)。戦後は占領期までが問われた。分野別では、政治から45%程度、文化から30%程度、社会経済から15%程度、外交から10%程度出題された。</p> <p>その他トピックス 大問I-Bで近世の農具に関する図版問題が出題された。 大問IV-(1)は、2017年度基礎シリーズ河合塾テキスト『総合日本史(論述編)』第3章基本問題7・演習問題2で、大問IV-(2)は、2017年度完成・実戦シリーズ河合塾テキスト『総合日本史(論述編)』第8章基本問題7で、それぞれ類似のテーマを扱っている。</p>

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	記述 <史料> <図版>	中世・近世・戦後 政治・社会経済	A 源頼朝の朝廷に対する奏状(『吾妻鏡』) B 江戸時代の農業(西川如見『百姓囊』) C 敗戦直後の日本(大佛次郎『敗戦日記』) (1)「徳政」は問い方が難しく答えにくい。(4)「来秋のころ」から秋に行われる「徴税」を想起したい。(7)御恩の中には「官位」の推薦があったことを知っていたかどうかのポイント。(13)(あ)「総理の宮」から皇族出身の東久邇宮稔彦が首相と判断した上で解答したい。	標準
II	記述 (短文空欄 補充)	中世～近代 総合	①鎌倉時代の肖像彫刻・肖像画 ②南北朝の内乱 ③享徳の乱 ④鎌倉・室町時代の商業・流通 ⑤近世初期の天守閣 ⑥徳川家康期の外交 ⑦近世初期の銭貨 ⑧浮世絵の技法 ⑨明治中期のルポルタージュ ⑩大戦景気と米騒動 基本事項からの出題が多く、取りこぼしは許されない。ス「撰銭」は空欄前後の文脈を慎重に読んで判断したい。	やや易
III	記述 (前提文)	古代・中世・近世 政治・外交・文化	A 古代の陸上・海上交通 B 中世における日中間の交流 C 江戸時代の旗本・御家人 (1)「摂津国」は京大でしばしば出題される歴史地理に関する理解を問う問題。(6)「南都で最も勢力のあった寺院」から「興福寺」を想起したい。(7)「五山制度」は「鎌倉後期」という表現に戸惑った受験生もいただろう。(15)「通商関係の樹立を求めて長崎に来航」から「レザノフ」と判断したい。	標準
IV	論述	古代・近代 文化・政治	(1)弘仁・貞観文化と国風文化の特色 仏教や文学などの具体例を対比的に示しながら、唐風と国風という文化の特色を論じたい。 (2)幕末における薩摩藩の動向 公武合体路線から反幕府路線へという変化を、契機となった薩英戦争にも触れつつ、簡潔にまとめたい。	標準

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準に判断しています。

- ① I～Ⅲの記述式 70 点、Ⅳの論述 30 点の配点を念頭に置いた学習計画を立てることが大切である。
- ② 全時代・全分野からまんべんなく出題される。I～Ⅲの記述式で高得点を確保するために、教科書を欄外の脚注なども含めてマスターしたい。
- ③ Ⅳの論述問題は対策の有無によって得点差がつく。早い段階から学習対策を立てて問題演習を行い、できる限り添削指導をうけること。
- ④ 史料問題は基本的に未見史料から出題されるが、市販の史料集などを利用して日頃から基本史料に慣れ親しんでおきたい。
- ⑤ 京都大学特有のひねりをきかせた設問対策として、夏期・冬期・直前講習および京大即応オープン・河合出版『入試攻略問題集 京都大学 地理・歴史』などの積極的な利用を薦めたい。